

高石市 現地ヒアリング調査報告

ネクストステージの総合計画研究会
調査日：2019年5月31日 14:45～16:45
参加者：豊田委員
【事務局】鈿持・高野

SWC首長研究会での議論・話題

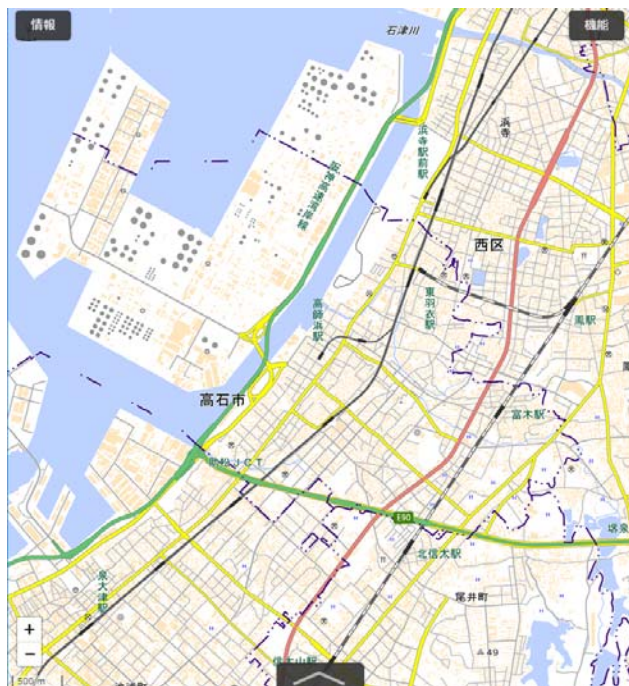
- **Walkable City**への転換
 - 自然と歩く、歩きやすい、歩きたくなる都市・公共空間国交省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」の中間取りまとめ(2019年6月26日)でも「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生」が謳われており、政策の大きな方向性に
- **無関心層**・多様な世代へのアプローチ
 - スポーツ(陸上・朝原氏やリーグチーム)、ペット、ユニバーサルデザイン(オトングラス)など多様なアプローチの必要性
 - 無関心層の存在は健康も都市計画(自治体の政策全体)も一緒
- 健康に対する**インセンティブ**
 - 健康(健幸)ポイント事業など各自治体でのポイント付与
 - 健康状態を測定・管理すると保険料割引になる生命保険商品

SWC首長研究会での議論・話題

- 政策の効果・成果を評価するための**エビデンス**
 - 見附市などが中心となって構築している健康クラウドシステム・AIの開発
 - 国保だけでなく、健保や共済など出来るだけ多くの人の医療に関するデータを収集する必要性→スケールメリット
 - 事業を実施するための資金調達手法としてのSIB(ソーシャルインパクトボンド)は、成果報酬型としてKPIの達成度合いに応じた対価が支払われる→健康関連指標の適切な管理・測定・評価
- 医療費の抑制に対するエフォートが各自治体の財政にしっかりと**還元される仕組み**を
 - 健康づくりによる効果は国保に限定されるものではない
- 現在SWC首長研究会加盟自治体は81だが、これを500自治体程度まで拡大し、政策のスタンダードとしていきたい



高石市の概要



国土地理院「地理院地図」を基に筆者加工

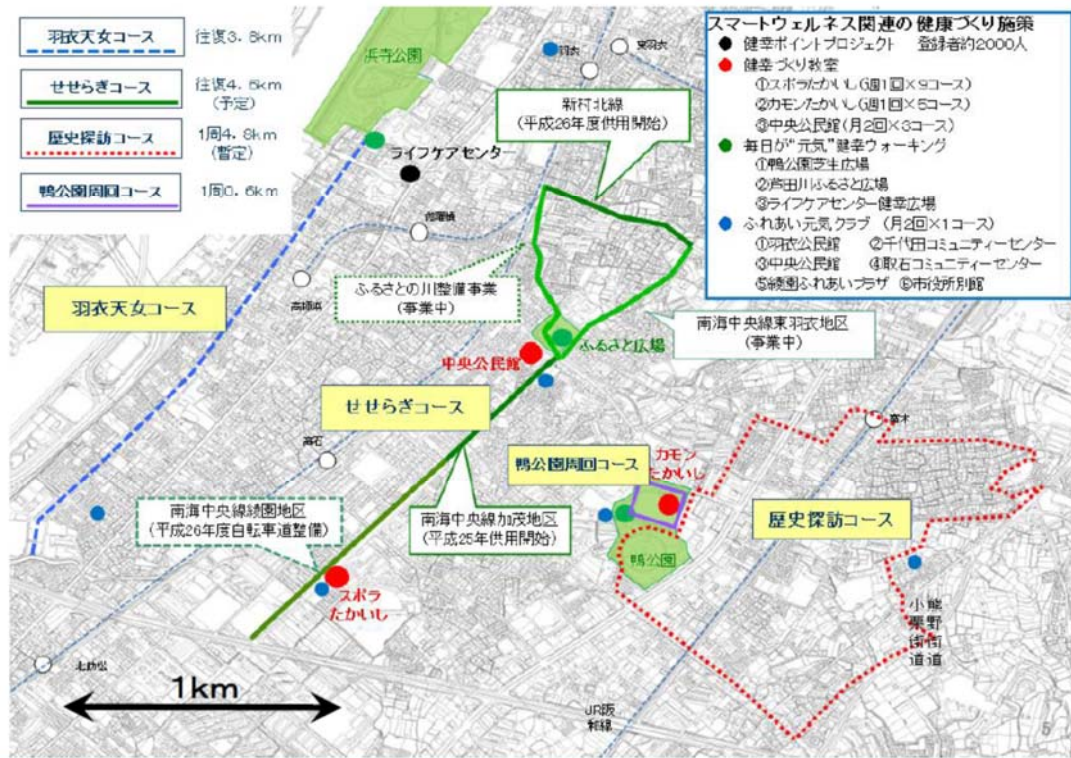
人口	56,485人(2015年国勢調査) ・ピーク時(1985年):約69000人 ・前回(2010年)と比較して約5%減少
面積・密度	面積:11.3km ² 人口密度:約5000人/km ² 内陸部の可住地に限ると約10000人/km ²
沿革	1966(昭和41)年:高石町が単独市制施行(堺市との合併の協議をした時期もあったが、現市長が合併反対の立場であり、現在は合併の話はない。)
経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> 臨海工業地帯に化学・ガス・金属などの大規模な事業所が立地 従業・通学者のうち、高石市内に従業・通学している割合は38.8%と、大阪府内で比較しても高くはない(大阪市・堺市への通勤・通学の方が多く、ベッドタウン的な性格の方が強い)。 市内には6つの鉄道駅があるが路線バスは一切走っておらず、市内の移動手段は自転車為主である。 かつて再開発事業などへの投資によって負債が多額となり、市の財政は悪化したが、行財政改革の取組みによって近年は改善傾向にある。

高石市のSWC政策の取組みの経緯

年月	施策・項目
2011年3月	第4次高石市総合計画策定 ・メインテーマ「市民主体のやさしさと活力あふれる“健幸”のまち」
12月	地域活性化総合特区の指定
2012年3月	健幸づくり教室の開始
2013年7月	南海中央線加茂地区の供用開始
11月	毎日が元気“健幸”ウォーキングの開始
2014年11月	健幸フェスティバル&高石マルシェの開催
12月	第1弾健幸ポイントプロジェクトの実施(文科省等補助事業)
12月	南海中央線綾園地区 自転車道の整備
2015年3月	新村北線の供用開始
2017年4月	健幸のまちづくり条例の制定
5月	高石市健幸のまちづくり協議会の発足
10月	第2弾健幸ポイントの実施(地方創生推進交付金事業)
2018年6月	芦田川ふるさと広場の完成(せせらぎコース開通)

スマートウェルネス
たかいし事本計画

ウォーキングコースの整備状況と健幸づくり拠点



出典: 高石市配布資料

■ 南海中央線 自転車道・歩行者空間の整備

- 車道の両側に自転車走行帯(対面通行可)が全区間にわたって設置されている。
- 加茂地区においては無電柱化され、歩道と自転車走行帯の間に人工のせせらぎも整備されている。



■ 南海中央線 健康関連の施設整備

- 歩道の舗装による運動と脳トレ？



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

9

■ 芦田川ふるさと広場

- 二層式河川の整備による洪水対策と親水・歩行者空間の整備



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

10



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

11

第4次総合計画策定からの動き

- 現行第4次総合計画は2011~2020年度で、内部で次期計画の策定の準備中(委員会などは未設置)。
- 総合計画策定後の変化、総合計画になかった取組み
 - シティプロモーション・ブランド戦略・・・「天女の住まう街」
 - 関空・インバウンド増加による観光PR・DMO・・・「工場夜景」
 - スマートウエルネス・健康寿命の延伸
- 阪口市長談『「市民主体のやさしさと活力あふれる“健幸”のまち」というテーマを決める際、当初は“健幸”という言葉は入っていなかったが、最後にこれを追加した。』
 - “健幸”をテーマに様々な施策が動いているという市職員の実感
 - 河川沿いの遊歩道の整備にあたって人道橋が数多く架けられていることなどには、一定程度“健幸”というキーワードが影響しているのではないかと思われる

泉北地域鉄道沿線まちづくり協議会

当初は泉州地域全体で図書館の共同利用などから連携が始まったが、協議会としては泉北地域に限定して計画を策定

○4市1町・・・堺市・高石市・泉大津市・和泉市・忠岡町

●平成28年度「広域的な立地適正化の方針」

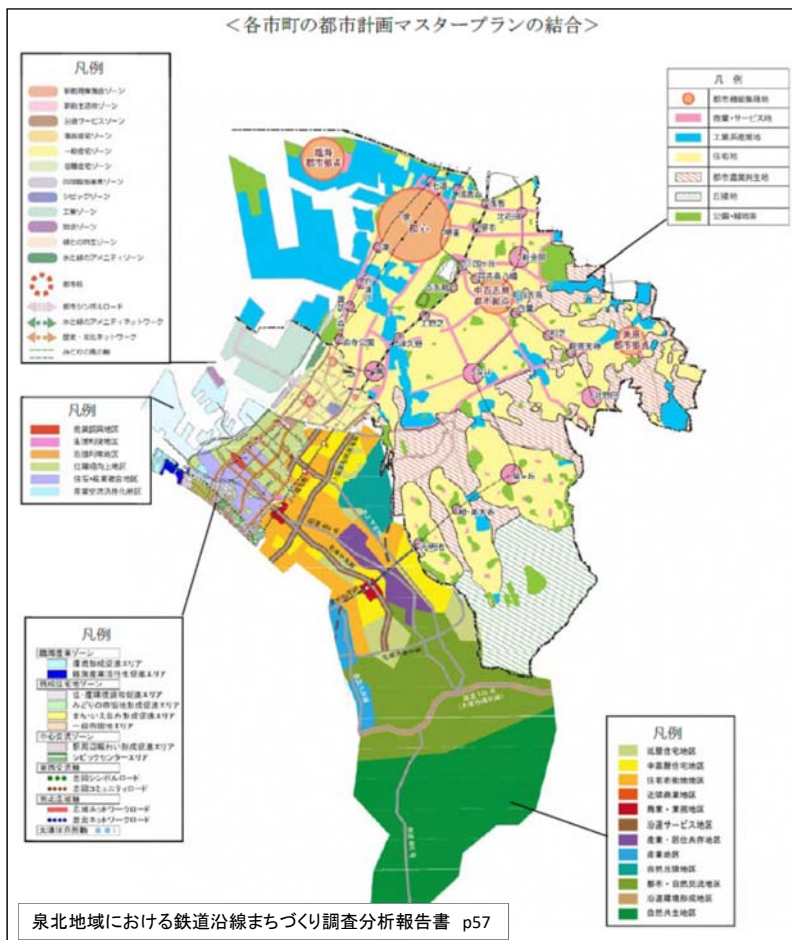
- 泉北地域の特性・将来予測、高次都市機能の現状の配置、公共交通網の状況などを整理し、今後の連携の方向性を提示

●平成30年度「鉄道沿線まちづくり調査分析」

- 泉北地域の都市構造、健康・医療・福祉のまちづくり指標などをより詳細に分析するとともに、高次都市機能施設を対象としたメルクマールを設定・評価し、今後の再編検討の基礎データとする

⇒関係自治体間で総論では賛成であり、議論は出来ている。

⇒具体的にどこに高次都市機能を集約化するか、どの施設を廃止してどの施設を存続させるか、という具体的な内容には踏み込めていない。



■土地利用構想・マスタープランの広域的な整合性

・4市1町の都市計画マスタープランの図を結合すると、図の表現、ゾーニングの考え方、拠点設定の方法などがまちまちで、モザイク模様になる

→森本ら(2017)でも福岡県や栃木県において各自治体の都市マスが整合していないことが指摘されている

高次都市機能の評価(メルクマールの設定)

メルクマール	カルテ項目	考え方	利用目的	病院	文化ホール	子育て支援施設	スポーツ施設	図書館	福祉施設
建物の築年数・建替え時期	・築年数 ・構造 ・建替え	建物の老朽化状況や建替えまでの期間より、基準値を設定し評価を行う。	通う・通う必要のある施設	○		○			○
維持管理費	・経営状況 ・延床面積	㎡あたりの維持管理費より、基準値を設定し評価を行う。	外出を促す施設		○	○	○	○	○
規模	・延床面積 ・床数や収容人数	敷地面積や収容人数等から、基準値を設定し評価を行う。	健康機能				○		
アクセシビリティ	・最寄駅 ・公共交通の利用環境	最寄りの鉄道駅までの距離等により基準値を設定し評価を行う。	医療機能	○					
代替性	・位置 ・診療科 ・地域連携の現状 ・その他	同種の他施設(代替可能な施設)との距離等により評価を行う。	福祉機能			○			○
利用率	・年間利用者数 ・経営状況	施設稼働率や収容人数と利用者数から利用率を算出し、評価を行う。	交流機能		○		○		○
特徴・特色	・施設内容	その施設の特徴・特色から定性的な評価を行う。	商業機能						
営業時間	・営業時間	施設の営業時間、利用可能時間、休館日から、基準値を設定し、評価を行う。	公共公益機能					○	
市町内外の利用の差	・市町内外の利用の差	市・町内の利用と市・町外の利用の差から定性的な評価を行う。	ポイント	・アクセスの良さが重要 ・代替が可能 ・利用人数が増えなくても経済発展につながる ・域内に必要量あればいい ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要	・人の動きを活発化させる施設 ・高齢者の健康に寄与する ・利用人数が増えたと経済発展につながる ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要	・アクセスの良さが重要 ・利用人数が増えたと経済発展につながる ・域内に必要量あればいい ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要	・人の動きを活発化させる施設 ・高齢者の健康に寄与する ・利用人数が増えたと経済発展につながる ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要	・人の動きを活発化させる施設 ・高齢者の健康に寄与する ・利用人数が増えたと経済発展につながる ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要	・アクセスの良さが重要 ・域内に必要量あればいい ・特徴、特色がある施設は代替が困難 ・来訪を促す仕組みが必要
将来人口	・将来人口密度	施設圏域の将来人口密度や将来高齢化率から評価を行う。	重視するメルクマール	・アクセシビリティ ・代替性	・規模 ・利用率	・アクセシビリティ ・特徴、特色 ・利用率	・特徴、特色 ・利用率		・アクセシビリティ ・特徴、特色 ・利用率

泉北地域における鉄道沿線まちづくり調査分析報告書 p76,77

施設ごとのメルクマール評価の例【病院】

【病院】

メルクマール項目	カルテ項目	メルクマール	点数	基準	重み	備考		
代替性	2.位置	同種施設との距離	1	0.5km未満	×2	・データの分布から基準を作成		
			2	0.5km以上 1.0km未満				
			3	1.0km以上 5.0km未満				
			4	5.0km以上 10.0km未満				
			5	10.0km以上				
規模	4.病床数	病床数	1	50床未満		・データの分布から基準を作成		
			2	50床以上100床未満				
			3	100床以上200床未満				
			4	200床以上300床未満				
			5	300床以上				
特徴・特色	3.診療科	診療科数	1	10科未満		・データの分布から基準を作成		
			2	10科以上15科未満				
			3	15科以上20科未満				
			4	20科以上25科未満				
			5	25科以上				
			救急医療体制	1	1次救急			
				2	2次救急			
				3	3次救急			
				1	平日9時～17時			・加点方式
				1	平日7時～9時などの早朝or17時～19時などの夕方			
1	休日の診療							
1	24時間(緊急外来など)							
1	料金の差はない	・加点方式						
1	移動費等の負担							

高次都市機能の評価結果

- メルクマールの合計点を基に施設群ごとの偏差値を算出
- 偏差値55以上をⅠ、45~55をⅡ、45以下をⅢとして評価

▼ 高次都市機能の評価結果 (1/2)

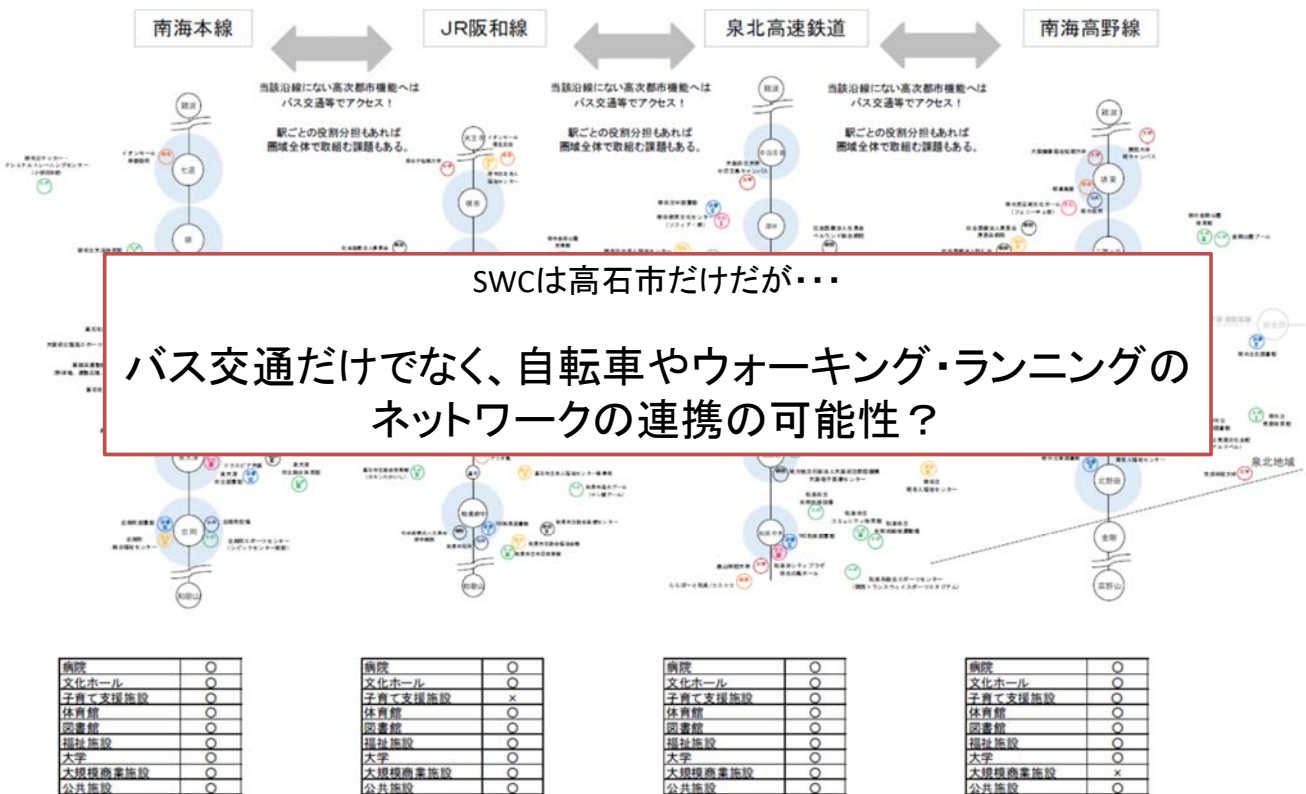
高次都市機能	市町	施設名	評価
病院	堺市	地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター	Ⅰ
	泉大津市	泉大津市立病院	Ⅱ
	和泉市	和泉市立総合医療センター	Ⅱ
	高石市	高石市立診療センター	Ⅲ
文化ホール	堺市	堺市教育文化センター (ソフィア・堺)	Ⅰ
	堺市	堺市立西文化会館 (ウエスティ)	Ⅰ
	堺市	堺市立梅文化会館	Ⅱ
	堺市	堺市立美原文化会館 (アルテバル)	Ⅱ
	泉大津市	テクスピア大阪	Ⅲ
	和泉市	和泉市シティプラザ 弥生の風ホール	Ⅲ
	高石市	高石市立市民文化会館 (アプラホール)	Ⅰ
	高石市	高石市立市民文化会館 (アプラホール)	Ⅰ
子育て支援施設	泉大津市	泉大津市立健康福祉プラザ (ココフレア)	Ⅲ
	高石市	子育てウェルカムステーション HUGOOD	Ⅲ
	大阪府	大阪府立大型児童館 ビッグバン	Ⅰ
スポーツ施設 (体育館)	堺市	堺市立大浜体育館	Ⅰ
	堺市	堺市原池公園体育館	Ⅰ
	堺市	堺市立初芝体育館	Ⅱ
	堺市	堺市家原大池体育館	Ⅰ
	堺市	堺市立駒谷体育館	Ⅰ
	堺市	堺市金岡公園体育館	Ⅰ
	堺市	堺市立美原体育館	Ⅰ
	泉大津市	泉大津市立総合体育館	Ⅲ
	和泉市	和泉市立市民体育館	Ⅲ
	和泉市	和泉市立コミュニティ体育館	Ⅲ
	高石市	高石市立総合体育館 (カモンたかいし)	Ⅱ

▼ 高次都市機能の評価結果 (2/2)

高次都市機能	市町	施設名	評価	
図書館	堺市	堺市立中央図書館	Ⅲ	
	堺市	堺市立中国図書館	Ⅱ	
	堺市	堺市立東図書館	Ⅱ	
	堺市	堺市立西図書館	Ⅱ	
	堺市	堺市立南図書館	Ⅰ	
	堺市	堺市立北図書館	Ⅱ	
	堺市	堺市立美原図書館	Ⅱ	
	泉大津市	泉大津市立図書館	Ⅲ	
	和泉市	TRC 和泉図書館	Ⅰ	
	和泉市	TRC シティプラザ図書館	Ⅱ	
	高石市	高石市立図書館本館	Ⅱ	
	忠岡町	忠岡町図書館	Ⅲ	
	福祉施設	堺市	堺市立堺老人福祉センター	Ⅱ
		堺市	堺市立中老人福祉センター	Ⅱ
堺市		堺市立東老人福祉センター	Ⅱ	
堺市		堺市立西老人福祉センター	Ⅰ	
堺市		堺市立南老人福祉センター	Ⅲ	
堺市		堺市立北老人福祉センター	Ⅱ	
堺市		堺市立美原老人福祉センター	Ⅲ	
泉大津市		泉大津市立総合福祉センター	Ⅰ	
和泉市		和泉市立総合福祉会館	Ⅰ	
高石市		高石市立老人福祉センター 瑞松苑	Ⅱ	
高石市		高石市立老人福祉センター 慶翠苑	Ⅰ	
高石市		高石市立老人福祉センター 菊寿苑	Ⅱ	
忠岡町		忠岡町総合福祉センター	Ⅲ	

泉北地域における鉄道沿線まちづくり調査分析報告書 p86,87

鉄道沿線ごとの連携・再編から、鉄道沿線同士を横方向で結び、連携が可能となる公共交通網の形成へ



泉北地域における鉄道沿線まちづくり調査分析報告書 p102

高石市の立地適正化計画

課題

1. 都市としての効率性をいかに維持し、さらに高めていくか
2. 多くの人を引き付ける都市としての魅力をいかに高めていくか
3. 増加する高齢者に対応したまちづくりをいかに進めていくか
4. 安全・安心な暮らしをいかに確保していくか

方針

1. **地域の特性を踏まえた都市核の形成**
2. 駅を中心とした居住地域の維持
3. 「“健幸”のまち」を目指した、歩いて暮らせるまちづくり

方針1. 周辺市町との連携・役割分担や、既存施設との整合を図りつつ、3つの主要駅を中心とする地域の特性を踏まえた都市機能を誘導します。

- 元々の市域が小さく、周辺含めて市街地が高密度で連担しているため、将来的に人口が減少するが、居住区域を縮小するような形では立地適正化計画は考えられていない。
- 3つの主要な駅からの徒歩圏域(800m)で市域(可住地)のほとんどがカバーされるため、都市機能についても特に集約を図ろうとはしていない。

